

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔1〕 特色ある学校づくりの推進	＊富岡東としてのオンリーワン教育の実現 ＊自立をめざす視点、共生をめざす視点、個性を重視する視点からの生徒の育成 ＊伝統の継承と新たなアイデンティティの構築	評価指標 ○県下で3校目の併設型の県立中学校として、その使命を果たし独自の校風を築く。 ○生徒一人ひとりを総合的に理解し、その能力と個性を最大限に活かし伸ばす教育を推進する。 ○次代を担うリーダーとしての資質を持ち、仲間と協力し共生できる生徒を育てる。 ○学校生活における、すべての教育活動の充実と深化を図り、伝統を重んじる校風を育てる。	評価指標による達成度 ・「夢をえがく講演会」や「グローバル語り部講演会」など、生徒の将来の夢の創造や人間性の向上等につながった。 A ・〈保護者アンケート〉学校は、生徒の学力を伸ばす学習指導ができています。89.0%（昨年度比0.4ポイントUP） B ・〈保護者アンケート〉学校は、適切な体験活動ができています。99.1%（昨年度比4.2ポイントUP） A ・〈保護者アンケート〉学校は、生徒間の良好な仲間づくりができています。92.2%（昨年度比3.2ポイントUP） A ・平成26年度入学者選抜志願者229名（昨年度比32名減） B	総合評価 （評定） A' （所見） ・開校4年目を迎え、学習指導、部活動、体験活動、生活指導など、様々な面で「富東中スタイル」が確立してきた。また、アンケート結果や入学志願状況などから、保護者や地域社会からの良好な評価が定着してきたと受け止めている。 ・開校当初から取り組んでいる「朝・夕の富東タイム」やRRC、また、環境学習・人権学習を中心とした社会貢献プロジェクトも進展し、富東中の学校づくりが計画に沿って着実に推進できている。 ・国際交流の取り組みが進展し、アルフレッド・ディーキン校との交流、またオーストラリアでの海外語学研修などが、生徒・保護者から高く評価されている。 ・中高教職員の連帯感や学校としての一体感が高まるとともに、中高それぞれの教育活動に対する理解も一層深まった。	○県南で唯一の中高一貫校として、次代を担う人材育成に日夜ご尽力されている学校関係者の皆様に感謝いたします。会議でも申し上げましたが、中高一貫でなければ果たし得ない特色として （1）高校生からの贈りもの 今、まさに進路決定をし、巣立とうとしている高校3年生からの話を聞くチャンスがあれば、きっと中学生は大人や教師が捉えるようなことではなく、なにかを吸収できるのではないかと思います。 （2）国際人として多様性を受け入れる力の育成 その根底には、人権意識の確立があるうかと考えますが、他者を思いやる「豊かな想像力」が何より大切になると思います。毎日の挨拶、服装、言葉づかい等、基本的な生活習慣の育成が大切だと思います。 ○生徒一人ひとりを理解し、能力と個性を最大限に活かし伸ばす教育を引き続き推進してほしい。グローバル化の時代、国際交流の取り組みをさらに充実させていきたい。	＜課題＞ 県下で3校目の併設型の県立中学校として、特色ある学校づくりをさらに推進する必要がある。 ＜方策＞ ○中高一貫教育を生かし高校生との交流をさらに充実させるなど、魅力的な教育活動を推進する。 ○オーストラリアの姉妹校との国際交流を、計画的に推進し、海外語学研修を計画的に遂行する。 ○子どもたちの将来の夢の創造につながるように、講演会やワークショップなど、キャリア教育の取り組みを推進する。 ○「富東タイム」について、活動の幅を広げるなど、さらに充実した取組となるように努める。
		活動計画 ・国際交流の取り組みを、計画的に推進し、海外語学研修を充実させる。 ・子どもたちの将来の夢の創造につながるように、キャリア教育の取り組みを推進する。 ・各種学校行事を充実し、良き伝統が先輩から後輩へ受け継がれるよう、生徒会を中心に活動させる。 ・制服を美しく着る、さわやかな挨拶、奉仕精神など、本校の伝統的美質を伝える指導をする。 ・総合学習の時間を中心に、自らの個性を見つめ、自分の進路や人生を切り拓く視点を持たせる。 ・現行の良さを残しつつできるだけ多くの新しい意見も採り入れ、より良い教育環境を目指す。	活動計画による実施状況 ・近隣の小中学校や有識者から意見を聞き、学校運営に反映させた。 ・富東祭などで生徒会が自主的に活動し、行事を成功に導くとともに、良き伝統が先輩から後輩へ受け継がれた。 ・制服の美しい着こなし、さわやかな挨拶など、富岡東の伝統的な美質が中学生にも定着した。 ・総合学習では、環境問題や人権問題について有意義な学習ができた。またその成果を発信できた。 ・本校の姉妹校であるオーストラリアのアルフレッド・ディーキン・ハイスクールとの交流を継続し、26名の生徒がオーストラリアでの文化・語学研修に参加した。 ・各行事の実施には教職員の意見を反映させ、行事後のアンケート等も実施した。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔2〕 多様なニーズと地域の信頼に応え、地域と共生する学校づくりの推進	* 学校評価制度の活用と学校の活性化 * 教師と生徒、生徒相互そして教師相互の温かい人間関係の構築 * ボランティア活動の推進	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校評議員会・関係者評価委員会を開催して教育活動の改善を図る。 ○ホームページを月2回以上更新する。 ○学年だよりを各学年で年間8回以上発行する。 ○阿南市内の小中学校・教育機関との連携を図る。 ○PTA組織を活性化し、各専門部の活動を充実させる。 	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月末までにホームページを32回更新した。 A ・学年だよりを、年間に1年生11回、2年生11回、3年生11回発行した。 A ・〈保護者アンケート〉学校は、学校の様子を、学校・学年だよりやホームページ等で適切に伝えている92.8%（昨年度比0.3ポイントDW） A ・〈保護者アンケート〉学校は、保護者と協力して教育活動を行っている。87.6%（昨年度比1.0ポイントUP） A 	<p>総合評価 (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、市中教研の授業研究会(社会科)を本校で開催するなど、阿南市の各学校や教育機関との連携がさらに密接になった。 ・開校4年目を迎えてPTA活動も組織体制が確立するとともに活動が充実し、保護者間の連携、また地域との連携がより一層深まった。 ・アンケート調査で、「学校は学校行事や授業参観等、保護者が参加できる機会を適切に設けている」と回答した保護者が97.1%（昨年度比0.5ポイントDW）と高い数値を示すなど、保護者からの理解と協力を得ながら教育活動を推進することができた。 ・アンケート調査で、「学校には子どものことを相談しやすい雰囲気がある」と回答した保護者が、80.9%（昨年度比4.7ポイントDW）と減少した点は今後の課題である。 	<p>○初めての学校評議員として、会議に参加させていただきました。校長先生、先生方、それぞれの委員の方のご意見をお聞きすることができ、たいへんありがたい経験でした。</p> <p>(1) 学校の雰囲気 アンケートの結果で「学校には、子どものことを相談しやすい雰囲気がある」と80%の保護者が回答されています。素晴らしいことですが、残り20%の保護者の中に悩みを抱えている場合が多いと思います。よろしく願っています。</p> <p>(2) 多様な体験を ともすると6年間で長く、勉強のみに追いやられていない生徒もいるのではないのでしょうか？ボランティア体験・部活動・職場体験・国際交流等、多様な経験をしてほしいと願っています。</p> <p>○入学者募集説明会に約500名の参加者があったことは、たいへんうれしい。本校での研究会を開くなど、活動が活発にできていることも良いと思います。</p>	<p><課題> 地域に開かれた学校づくりをさらに推進し、保護者との連携をよりいっそう深める必要がある。</p> <p><方策> ○入学者募集説明会等の広報活動をいっそう充実させるとともに、より広い地域から入学希望者が集まるように、広報活動の実施方法を工夫する。</p> <p>○生徒・保護者とのコミュニケーションを深め、特に長期休業中の三者面談を充実させるなど、相談しやすい雰囲気作りに努める。</p> <p>○より充実した活動ができるようPTA組織のあり方について検討する。</p> <p>○公開授業など、地域との連携・交流の取り組みをいっそう充実させ、積極的な広報に努める。</p>
		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育力を活用するため、学校運営について、有識者から意見を聞き、学校運営に反映する。 ・生徒役員等を中心に地域の様々なボランティア活動等に参加し地域社会との交流を進める。 ・阿南市中学校教育研究会等の教職員研修組織に積極的に参加する。 ・生徒・保護者とのコミュニケーションを深め、特に長期休業中の三者面談を充実させる。 ・阿南市PTA連合会の活動に積極的に参加する。 ・富東祭・ふれあいフェスタ・公開授業等の公開行事を積極的に開催し、効果的に広報する。 ・ホームページを定期的に更新し、学校行事や部活動の状況等学校の取組を発信する。 ・入学者募集説明会の開催や学校案内の配布により、小学生や保護者に対する広報をより効果的に行う。 	<p>活動計画による実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員会を開催し、学校評議員や関係者の意見を学校運営に反映させた。 ・社会貢献プロジェクトの一環として、2年生が環境に配慮した独自のまちづくりについて研究し、とくしま環境学習フォーラムで発表した。 ・阿南市中教研授業研究会(社会科)や、阿南市中学校長会研究協議会等を本校で開催した。 ・PTA総会時に学年懇談を実施した。また夏季休業中と冬期休業中に個人懇談(三者面談)を実施した。 ・市P連の活動に積極的に参加し、市P連球技大会のバレーボール部門で、3年連続となるブロック優勝した。 ・富東祭・オープンスクールを実施し、地域の方々に本校の教育活動を公開した。 ・学校行事や部活動等の学校生活、また、PTA活動や入学希望者への案内等について発信した。 ・入学者募集説明会を10月に開催し、約500名の参加があった。また、県南地域の各小学校を訪問し、本校の教育活動等について広報した。 			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔3〕 生徒の自主性の基盤向上に向けた取り組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> * 生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成 * 指導内容の精選と指導方法の工夫改善 * 自ら考え行動し解決できる資質や能力の育成 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究授業（大研）を年間2回実施する。 ○ 相互授業参観を年間1回以上実施する。 ○ 学習意欲が十分にある生徒90%以上。 ○ 授業に積極的に取り組む生徒90%以上。 ○ 家庭での平均学習時間1日2時間以上の生徒80%以上。 	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業（社会科・技術科）を実施した。 A ・ 相互授業参観をすべての教科担当が実施した。 A ・ <生徒アンケート>学習意欲が高まっている生徒73.2%（8.5ポイントDW） B ・ <生徒アンケート>授業に積極的に取り組んでいる生徒86.6%（3.2ポイントDW） B ・ <生徒アンケート>家庭で2時間以上学習している生徒55.2%（12.8ポイントUP） B 	<p>総合評価 （評定）</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>（所見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科の学習指導に関しては、学習意欲や学力向上について生徒アンケートの結果が昨年度と比較してやや低下しており、生徒が自主的に学習に取り組む指導のあり方が課題となっている。 ・ 研究授業など教員の指導力向上については、昨年度と同程度の取り組みができた。 ・ 理数研究部の研究が昨年引き続き県知事賞を受賞した。また、富東タイムの活動成果として、英語によるコミュニケーション能力も着実に向上しており、本校のめざす教育の特色づくりを進めることができた。 ・ 家庭学習の習慣については、昨年度に引き続き重点課題として取り組んだが、アンケート結果に表れた数値は一定の向上が見られたものの、目標値には到達しなかった。学年が進むにつれて学習内容が難しくなり、学力差も大きくなっており、学習意欲が低下している生徒へのきめ細かな指導が必要である。 	<p>○ 全校一斉に取り組む朝の富東タイムは、「継続は力なり」で貴重な時間だと思います。さらに、検定に挑戦することは素晴らしいです。</p> <p>○ 伸びきってしまった生徒への対応 6年間で、体力差・学力差が著しく変化することだと思います。人生では、進路変更も重要だと思います。ただし寄り添っている人が必ず必要だと思います。これこそ教育者としての永遠の課題だと思います。よろしくお願いします。</p> <p>○ 学習意欲が低下している生徒へのきめ細かな指導は、例えば小さなグループでの学習も効果があるのではないかと思います。</p>	<p><課題> すべての生徒が高い志と強い意欲を持ち、楽しく学ぶ教育活動を充実させる必要がある。</p> <p><方策> ○ 研究授業等の校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。</p> <p>○ 本校の実態に応じた、学ぶ意欲の向上につながる評価のあり方について検討する。</p> <p>○ テスト前や放課後の個別指導をさらに充実させるとともに、自ら学び分からないところは質問する態度を育てる。</p> <p>○ 生活実態調査や学習状況調査を効果的に実施し、調査結果をもとに指導の充実を図る。</p>
		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修、授業評価アンケート等を実施し、指導力の向上を図る。 ・ 学力向上検討委員会において、生徒の学力向上を図る授業の展開や評価のあり方等を検討する。 ・ 「富東タイム」について、さらに充実した取組となるように努める。 ・ RRCの実施や具体的な学習目標の設定により、学習意欲の向上を図り、分からないところは質問する態度を育てる。 ・ 学習内容が定着していない生徒に対しては、テスト前や放課後の個別指導を実施する。 ・ 生活実態調査や学習状況実態調査を効果的に実施する。 ・ 教科担任は計画的・効果的に課題を出し、ホームルーム担任は学習記録表を提出させる等、家庭学習習慣が定着するように努める。 	<p>活動計画による実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県教委学校政策課から指導助言者を招いて、社会科の研究授業を実施した。 ・ 学力向上検討委員会が作成した「学力・学習状況改善プラン」に基づいて学習指導の改善を行った。 ・ 朝の富東タイムでは短歌・俳句の創作を中心に、また、夕の富東タイムではNHK基礎英語を中心に取り組み、漢字検定や英語検定の多数合格など、着実な成果があった。 ・ 生徒アンケートで、RRCを学力向上に役立てている生徒が80.5%（3.0ポイントUP）であった。 ・ 定期テスト前には放課後質問教室を実施した。また、再テストを実施して学習内容の確実な定着を図った。 ・ 学習状況実態調査を実施して、生徒の学習時間やテレビ・ゲームにあてる時間を調査し指導に役立てた。 ・ 学級担任と教科担任が連携して、家庭学習記録表等の指導に取り組んだ結果、家庭学習を1日2時間以上行っている生徒の割合が55.2%（12.8ポイントUP）と、目標は達成できなかったものの、一定の向上があった。 			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔4〕 中高一貫教育の円滑な実施	<ul style="list-style-type: none"> * 中高教員が連携した計画的継続的な指導計画を作成 * ホームページのさらなる充実 * 開かれた学校づくりの推進 * 心のふれあう校風の樹立 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生と高校生の交流活動を、年間延べ10日間以上実施する。 ○中高教員によるTT指導を各学級週4時間以上実施する。 ○中高連携授業研究会を年間3回以上実施する。 ○中高の教員が一体となり、中高一貫の教育課程について検討する。 	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富東祭・生徒総会など、中高合同の教育活動をのべ12日実施した。 A ・1・2年生は保体で、3年生は英語・数学・保体で、中高教員によるTT指導・習熟度別指導を実施した。 A ・相互授業参観を中高合同で実施した。 B ・中高一貫教育推進検討会を開催し、中高一貫教育の特色を生かした教科指導のあり方について検討した。 A ・〈生徒アンケート〉高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっていると感じている生徒85.3%(昨年度比12.0ポイントUP) A 	<p>総合評価 (評定)</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の一期生が高校に進学し、中高一貫校としての形が完成する中で、学校行事や部活動など、中高合同の教育活動の実施が定着した。 ・教職員の指導体制や研究・研修体制についても中高の共通理解のもと、一体的な運営ができた。 ・中高一貫の教育課程の編成など、本校独自の中高一貫教育のシステム構築について検討する体制が充実した。 ・中学校で一緒に活動してきた一期生が高校へ進学し、生徒へのアンケートで、「高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっている」と答えた者が大幅に増えた。 ・開校から4年が経過し、中学校の教育活動を検証して、修正すべき点を洗い出し、改善する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっている」と感じている生徒が85%は、実にすばらしいことだと思います。思春期の中学生にとって、あこがれの先輩に出会うことは、自らの進路・人生について考える最高の機会だと思います。 ○「高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっている」と感じている生徒が多く、円滑な中高一貫教育を実感します。 	<p><課題></p> <p>中高一貫教育校としての6年間を見通した教育活動や組織体制をさらに充実させる必要がある。</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、中高合同の検討委員会等を開催して検討する。 ○内進生と外進生の状況を様々な側面から分析し、中学校から高校への接続のあり方について検証する。 ○中高教員の連携による効果的なTTや習熟度別等の指導をさらに充実させる。 ○他校の実践例を研究し、本校の取組に生かす。 ○中高の生徒が合同で取り組む活動をさらに充実させる。
		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、中高合同の検討委員会等を開催して検討する。 ・一期生が高校へ進学する年度を迎え、中学校から高校への接続について、本校の教育目標や生徒の実態に即した「富岡東スタイル」を確立する。 ・中高教員の連携による効果的なTTや習熟度別等の指導を充実させる。 ・他校の実践例を研究し、本校の取組に生かす。 ・中高の生徒が合同で取り組む活動をさらに充実させる。 ・中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行う。 ・中高合同の学力向上検討委員会等において、生徒の学力向上を図る授業の展開を検討する。 	<p>活動計画による実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富東祭(文化祭・体育祭)・生徒総会・総体激励会などの等の学校行事を中高合同で実施した。 ・音楽部・書道部・美術部などの文化部では、中高合同の活動が定着した。運動部では、体力・技能の差に応じて、可能な範囲で活動しており、高校の部活動への中学生の参加も一部で始まった。 ・英語・数学・体育で高校の教員と中学校の教員が合同で中学校の授業を実施し、その授業を通して高校の教員が中学生の学習内容や到達度を具体的に把握することができた。 ・中学3年生の数学・英語で習熟度別授業を実施し、中高の教員が連携して学習指導に取り組んでいる。 ・中高一貫教育推進検討会を開催など、中高合同で教育課程や学力向上に関する取り組みを検討する体制が充実した。 			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔5〕 特別活動の充実と「さわやかで活力あふれる富東」の精神の高揚	<ul style="list-style-type: none"> * あいさつ、マナー等の基本的生活習慣の定着 * 食育の推進と心身ともに健全な生徒の育成 * たくましく生きる精神力と、心豊かな人間性の育成 * 安全教育や防災教育の徹底と事故防止への取組の強化 	評価指標 ○遅刻ゼロの生徒90%以上。 ○あいさつがきちんとできる生徒90%以上 ○部活動の参加率95%以上。 ○市レベル以上の各種大会・コンクール等での入賞が、年間延べ30人以上 ○食に対する意識が高まった生徒80%以上 ○登下校時の交通事故ゼロ。 ○HR担任と教科担任は、始業のチャイムを教室で聞く。	評価指標による達成度 ・〈生徒アンケート〉学校に来ることが楽しい88.7%(昨年度比1.3ポイントDW) B ・〈生徒アンケート〉遅刻ゼロの生徒86.1%(昨年度比1.4ポイントDW) B ・〈生徒アンケート〉あいさつをきちんとしている生徒89.6%(昨年度比4.9ポイントDW) B ・部活動全員参加 A ・サッカー部が阿南市総体で準優勝し、秋の新人大会ではバドミントン部が優勝した。また、理数研究部が日本学生科学体験で、昨年度に引き続き県知事賞を受賞するなど、多数の受賞・入賞があった。 A ・〈生徒アンケート〉朝食をきちんと食べて登校している生徒96.2% A ・登下校時の交通事故がゼロであった A	総合評価 (評定) A, (所見) ・アンケートで、「学校に来ることが楽しい」と回答した生徒の割合が、昨年度と比較してわずかではあるが低下しており課題である。欠席がちだったが登校できるようになった生徒もいるものの、欠席が続いている者もある。 ・基本的な生活習慣や規律正しい学校生活に関しては、目標をおおむね達成することができた。校則やあいさつに関するアンケート結果は良好であったが、昨年度と比較してわずかながら低下しており改善をめざしたい。 ・生徒同士、あるいは生徒と教師の人間関係も良好で、学校生活への高い満足度につながっていると考えられる。 ・部活動では、運動部・文化部ともに積極的に活動しており、実績を伸ばすことができた。	○高校を卒業する生徒のほとんどが胸をはって母校を後にすることでしょう。ただ、欠席がちな生徒のことが気になります。よろしくお願いたします。 ○朝食をきちんと食べて登校している生徒が96.2%の多さに驚き、活力あふれる富東を実感しました。	<課題> 部活動における施設・設備や指導体制をさらに整備する必要がある。 また、自らの安全と公衆道徳に対する生徒の意識を高める必要がある。 <方策> ○教育相談等の体制を改善し、欠席がちな生徒への対応を充実させる。 ○高校の部活動との一体的な活動や連携をさらに充実させる。 ○中学生の部活動の活動場所をさらに確保する。 ○状況により外部指導者の活用を図る。 ○生活ノートを活用し、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。 ○自転車通学のマナーを向上させる取り組みを進めるとともに、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。
		活動計画 ・あいさつの励行や清掃活動への主体的取り組みを促す。 ・生活ノートを活用し、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。 ・自転車通学のマナーを向上させる取り組みを進めるとともに、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。 ・ホームルーム活動、全校・学年別集会を通して、服装・頭髪・マナーについての自覚を高める。 ・定期的に生活実態調査を実施する。 ・高校の部活動との一体的な活動や連携を充実させ、活動環境をさらに整備する。 ・食育通信の発行や給食試食会の開催等、保護者と連携した食育を推進する。	活動計画による実施状況 ・富東生らしいさわやかなあいさつが定着した。清掃活動にもしっかり取り組んでいる。 ・始業のチャイムと同時に授業を始める習慣は引き続き定着している。 ・生徒会活動での服装チェックや、定期的実施している昇降口指導により、「制服を美しく着こなす」意識が定着している。 ・定期テストの実施に合わせて生活実態調査を実施し、生活習慣の改善指導に役立っている。 ・これまでに、富岡小学校体育館の借用や、バスケットゴールの設置(駐車場)など、部活動の環境整備を進めてきたが、本年度、新たな整備はできなかった。 ・給食だよりを毎月発行するなど、保護者と連携して食育を推進できた。 ・街頭交通指導を定期的実施した。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔6〕 人権と環境に対する高い意識を育てる教育を実践する。	* 生徒一人ひとりの人権尊重の意識を高め、人権感覚をみがくために、教育活動全般をととした人権教育の取組を充実させる。 * 校舎内外の環境美化に努めるとともに、環境問題に対する理解を深め実践力を育てる。	<p align="center">評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人権意見発表会や人権教育講演会等を実施する。 ○人権問題教職員研修会を年3回実施する。 ○保護者への人権啓発活動を積極的に実施する。 ○生徒の社会貢献への意識を高める。 ○全校的なボランティア活動を実施する。 ○環境問題を意識した生活ができている生徒90%以上。 	<p align="center">評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学級の代表による人権意見発表会を開催した。また、中高合同PTA人権教育研修会を4地区で開催した。 A ・人権問題教職員研修会を年3回実施した。 A ・PTA活動や学校行事、各種配付物を通じて保護者への人権啓発を行った。 B ・徳島県環境学習フォーラムで学習成果を発表するなど、生徒の社会貢献意識を高めた。 B 	<p align="center">総合評価 (評定)</p> <p align="center">A,</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの結果、「相手の立場に立った言動ができている」生徒が93.9%（昨年度比0.7ポイントDW）など、日々の学校生活を通じて、人権意識の高まりが見られた。 ・人権意見発表会では、今年度も生徒の高い人権意識を感じ取ることができた。 ・環境教育では、第2学年が昨年度に引き続いて、とくしま環境学習フォーラムで研究成果を発表するなど、積極的な取組ができた。 ・日々の取り組みとして、節電節水を徹底し、廃油の回収活動等についてより積極的に取り組む必要がある。 ・PTAの人権啓発活動は、これまでと同様の活動を継続実施したが、参加者がやや減少した。 	<p>○人権は、生涯かけて学び行動する学習だと思います。それは、人権知識を増やすことでなく、優しさのあふれた自分づくりの学習だと思います。そして、それは世界共通のパスポートだと思います。環境問題は、学ぶことと実践することで、さらに深く高く成長できる分野だと思っています。</p> <p>○環境教育に積極的に取り組み、提言の内容にも説得力があり感心しました。さらに実践していただきたいです。</p>	<p><課題> 人権と環境を柱とした教育活動の推進体制と指導計画をいっそう充実させ、「社会貢献プロジェクト」を着実に実践する必要がある。</p> <p><方策> ○「社会貢献」の視点を重視した人権・環境教育をいっそう充実させる。</p> <p>○人権・環境について、保護者も参加して共に学ぶ機会を増やす。</p> <p>○学年だよりやホームページ等を通じて、学校での人権・環境教育の学習内容を、保護者に向けて発信する機会を増やす。</p> <p>○市P連の活動等を通して人権・環境教育における地域との連携をいっそう深める。</p> <p>○資源ゴミの分別回収や廃油の回収など現在の取組をいっそう充実させる。</p> <p>○体験的な学習活動を充実させるなど、人権教育の学習方法を工夫改善する。</p>
		<p align="center">活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会貢献」の視点を重視した人権・環境教育をいっそう充実させる。 ・人権・環境について、保護者も参加して共に学ぶ機会を増やす。 ・学年だよりやホームページ等を通じて、学校での人権・環境教育の学習内容を、保護者に向けて発信する機会を増やす。 ・市P連の活動等を通して人権・環境教育における地域との連携をいっそう深める。 ・資源ゴミの分別回収や廃油の回収など、現在の取組をいっそう充実させる。 ・体験的な学習活動を充実させるなど、人権教育の学習方法を工夫改善する。 ・PTA人権教育部の活動を工夫する。 	<p align="center">活動計画による実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2学年が、環境に配慮した独自のまちづくりについて研究し、その成果を昨年度に引き続いてとくしま環境学習フォーラムで発表した。 ・人権問題学習の公開授業を実施し、保護者参加のもとで、さまざまな人権問題について学習した。 ・1学期には人権問題意識調査を実施し、今年度の人権学習を推進するための基礎資料とした。 ・2学期に中高PTAによる人権啓発研修会を4地区で開催した。また、阿南市人権啓発講演会に、PTA人権教育部から年間4回参加した。 ・「富東人権新聞」を7回発行し、中学生からの提言・意見も随時掲載した。 ・節電と徹底や、プリント類の裏面利用、封筒類の再利用など、省資源活動が定着した。 ・資源ゴミの分別収集は定着しているが、廃油の回収活動は回収量が低下している。 			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔7〕 組織力で迅速かつ有機的に動く教職員集団の構築	<ul style="list-style-type: none"> * 個々の教師に頼ることなく、「報告・連絡・相談」の意識を徹底 * 生徒の状況等について教職員が情報を共有する環境の整備 * 教職員が自主的に研修に参加し、資質の向上のために自己研鑽に励む意識の高揚 * カウンセリングに関する専門的な知識やスキルの会得と、協働する組織の構築 	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 服務規律に関する研修会を開く。 ○ コンプライアンス、情報セキュリティ等の研修を充実させる。 ○ 不祥事を未然に防止する、風とおしのよい職場環境を作る。 	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員アンケートの結果から、教職員の意思疎通は適切に行われていることが確認できた。 A ・ 生徒の状況について教職員の共通理解のもとで教育活動を実施できた。 A ・ コンプライアンスに関するアンケート調査の結果から、コンプライアンス意識が徹底できている状況が確認できた。 A ・ 情報セキュリティに関するセルフチェックの結果から、昨年度の状況からの改善が見られた。 B 	<p>総合評価 (評定)</p> <p>A'</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員間のコミュニケーションは十分に図られており、「報告・連絡・相談」も適切に行われている。 ・ 三者面談や生徒面接等で知り得た情報を教職員が共有し、指導に活かすことができた。 ・ 教職員のコンプライアンス意識は高いことが確認できた。特に自動車を運転する際の交通違反・事故には十分に気をつけるよう努めている。 ・ 情報セキュリティについては、クリアデスクの実行やウイルス対策など、昨年度の調査で不十分だった点が改善された。 	<p>○ 生徒は、先生方が仲良く笑っている姿が好きだと思います。ひとり親・核家族・三世同居等さまざまです。しかし、どのような家族構成であっても、子どもたちの居場所があり、夢を語れることができ、温かい食事があり、暖かい布団で夢を見て、次への力がはぐくまれる家庭であるなら、子どもたちは自分の人生を、自分の力で切り拓いていくことができると思っています。</p> <p>○ 教職員間のコミュニケーションが十分図られていることが、子どもたちの教育活動の充実につながっていると思います。</p>
		<p>活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理職を中心として、教職員間の「報・連・相」をシステムとして徹底するとともに、コミュニケーションのいっそうの充実に努め、風通しの良い職員室・教職員体制づくりを推進する。 ・ コンプライアンスや情報セキュリティ、また、カウンセリング等の研修を充実させ、今日的な問題に適切かつ迅速に、組織として対応できるようにする。 ・ 携帯電話等のネットリテラシーについて、子どもたちがIT社会でより良く生きる力を身につけ、トラブルに巻き込まれることがないように、情報教育体制を整える。 	<p>活動計画による実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員間のコミュニケーションの機会を大切にし、風とおしのよい職場環境づくりに努めた。 ・ 生徒の健康状態、家庭状況、人間関係、学習状況などについて、担任だけでなく、学年組織や、養護教諭等が共通理解を深め、管理職や教育相談との連絡や相談も行いながら助言や支援を行った。 ・ 職員朝会、中学校職員会、学年部会などの機会をとらえて、コンプライアンス意識の徹底を図った。 ・ 情報セキュリティに関するセルフチェックの実施等を生かして、遵守事項の確認と意識の向上を図った。 ・ 警察等と連携し、外部講師を招いて携帯電話の正しい使い方など、ネット社会への適応力を高める取り組みを実施した。 		